

令和6年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

日 時	令和6年5月24日（金） 9時30分～11時00分
場 所	南国市役所 5階 第2～第5委員会室
出席者	南国市長 平山 耕三 南国市教育委員会 教育長 竹内 信人 職務代理 上岡 哲朗 教育委員 細川 善久 教育委員 楠瀬 公美 教育委員 浅野 聡子

1 開会

開会の挨拶（平山市長）

2 議事

【議事1】 令和5年度南国市教育委員会の事務事業自己点検・評価について

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【細川教育委員】

- 現在、教育委員及び教育委員会事務局で学校訪問を実施しており、これまで訪問した感想として、昨年まではどこか落ち着かない雰囲気のある学校があったりしたが、今年は何の学校でも落ち着いて学習に向き合っているように感じた。その理由として考えられるのは、一つは南国市が始業式を遅らせたことにより、教員の方々も余裕をもって始業を迎えられたことであると思われる。そして、もう一つの大きな理由として考えられるのは、支援員の人数が増えたことにより、支援が必要な生徒に寄り添うことができる環境が構築されたことであると思われる。これらの理由により、今年は良いスタートを切ることができたのではないかと感じたので、この場にて報告させていただく。

⇒ 【竹内教育長】

- 事業内容について評価委員の方々から一定の評価は頂いているが、共通して事業整理等の必要性についてのご意見も頂いている。事務局ではこれまで事業整理を進めてきたつもりであったが、まだ整理が不十分なようなので、今後も事業を進めるうえで更なる整理を進めていく必要があると感じている。

⇒ 【平山市長】

- 一定の評価を頂いている事業ばかりであり、その中で事業の整理を進めるのは難しいことだとは思いますが、良いところは残しながらも、見直しできるところは見直しを進めていただきたい。

令和6年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

〔議事2〕南国市学校給食アドバイザー会議について

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【浅野教育委員】

- 私は南国市に移住して10年になる移住者だが、食と教育というのは人口減少に歯止めをかける一つのきっかけになると感じている。都心部からの移住者にとって、地方の食というのは魅力的なものだと思っており、それが日々子供たちの通う学校で地産地消、安心安全、そして美味しい給食が食べさせられるというのは、親の立場からも大きなメリットがあると考えている。南国市ではこれまでも食育に力を入れてきたことは存じているが、南国市の給食が地元一体となって子供たちを育てていくものだと、その他の食育に関する様々な取組と併せて、今後も継続的に南国市のPRとして活用していただきたい。一方で現在は物価高騰が加速しており、給食においても原価負担が生じていると思われるが、そういった一面も食育に取り込んでいくことでより良い食育となり、移住のきっかけにもなるのではないかとと思われる。

⇒【平山市長】

- 南国市の食育をPRしていくことで、多くの方に興味を持ってもらうことができれば嬉しいので、今後取り組んでいきたい。
- 物価高騰については非常に厳しい現実であり、南国市でもできる限りの努力はしている。また、違う話ではあるが残食問題もあり、特に残された牛乳の写真でこの課題の現実を突きつけられたように感じる。しかし、現状で解決策はなく、今後の検討課題とさせていただきたい。

【細川教育委員】

- 南国市で食育という言葉を使い始めたのは25年程前だったと記憶している。当時の教育長はアドバイザーの西森氏であり、最初は週3日あったパン食の日を無くして全て米食に変更したが、それだけではあまり変わりはないように思われる。最初に大きく変わったのは、炊飯器を導入したことで子供たちが非常によく食べるようになったことで、その次に大きく変わったのは、栄養職員を配置したことで安定した食育が行えるようになったことである。このように設備導入や人員配置など、長い時間をかけて取り組んできたおかげで今日の南国市の食育があると思われる。その中で、中学校での給食はまだ始まったばかりで課題も見受けられるが、栄養職員と生徒会がタイアップし、残さない給食メニューを考えるなど、問題解決に取り組んだりもしている。今後は、小・中学校の栄養職員が連携することで、新たな取組もできるのではないかと考えている。

⇒【平山市長】

- 小・中学校の栄養職員が連携するという提案を頂いたが、これを参考にできることがあれば今後取り組んでいただきたい。

〔議事3〕南国市いじめ・いじめ疑い含む報告及びいじめ重大事態の報告について ※非公開

令和6年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

〔議事4〕南国市これからの教育・保育の在り方についての答申への対応について

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【楠瀬教育委員】

- 先日23時ごろに地震が起きた際に、子供が逸早く目を覚まし避難を促していた時に防災教育が行き届いているなど感じると同時に、夜の避難に備えなければならないとも感じた。そのため、避難訓練も昼だけではなく、夜にも行う必要があると思われる。また、学校が津波の浸水想定区域にあるなど、不安を感じながらも学校に通わせている保護者の方々もいるので、少しでも早く子供たちを安心して通わせることのできる体制を整えていただきたい。

⇒【平山市長】

- 安心できる環境づくりが一番大切なことであるため、今後も考えて行かなければならない。保護者毎に現状や今後に対する思いは異なると思いますので、皆様の意見も聞き取りしながら今後の方向性を検討していただきたい。

【平山市長】

- 大篠小学校については、児童数が現在の779名から943名に増えるとの予測結果が出ているが、そうなった場合に対応することは可能なのか。

⇒【教育委員会事務局】

- 確かに大篠小学校については児童数が増えるとの予測結果になっているが、令和6年度に入学した児童についても、隣接校制度又は特認校制度を利用する児童や転出・転居する児童がおり、令和5年度時点の予測数より20名減っております。このように、毎年20名程は実際に入学する児童数は減っており、予測結果程に児童数が増えることは無いと思われまます。

⇒【竹内教育長】

- 一昨日、全国市町村教育委員会連合会が開催され、国の方から適正規模・適正配置に関する基本的な考え方についての説明がありました。少子化が進む中で、一定の規模を確保することが望ましいとはされているが、地域の実情も考慮して各自治体において統廃合を行うのか、または小規模校を存続させるのかを判断すべきとのことだった。ただし、小規模校を存続させる場合においては、小規模校でなければできない等のメリットを生かす仕組みを作っていくべきであるとのことだった。南国市の場合、小規模校が非常に特色のある学校運営ができていると思われるので、児童数だけで判断することは良くないと思われる。

⇒【竹内教育長】

- 大篠小学校については隣接校制度を開始する前に、10年間の児童数推移を予測したところ、令和6年度ごろから児童数が減るという予測であったが、現状では増えてきている。そのため、隣接校制度や特認校制度で児童数を抑えている状況である。ただし、大篠小学校における直近の課題は全体の児童数ではなく、特別支援学級の児童数が増加していることである。現在は60名程の児童が特別支援学級に在籍しており、県内でも同様に特別支援学級の児童数が増えてきている。大篠小学校では校舎の長寿命化が必要であり、長寿命化に向けての改築に併せて、この課題への対応も考えて行かなければならない。

令和6年度第1回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

【上岡職務代理】

- 保護者にしてみれば、少しでも良い環境で子供たちに通わせたいという思いがあると思うが、他の学校に通わせている保護者から意見が出る等、『地域の声』が別の意味で入ってくることを危惧している。このような検討を進めるうえで、児童の安全を最優先すべきだと考えており、高等学校ではあるが、実際に山の上に校舎を移す学校も県内で出てきている。今後、昼間に来るとは限らないが、浸水想定区域に津波が来ることは確実なので、地域からの意見もあると思うが、児童の安全を第一に検討を進めていただきたい。また、大篠小学校で児童数及び特別支援学級の児童数が増えている問題についても、現状では三和小学校や稲生小学校を選択する方はいないかもしれないが、安全な環境を整備することで、隣接校制度における選択肢が増える等、解決の糸口が掴めるかもしれない。このように、様々な観点から検討を進めていただきたい。

その他

特に意見・質問等無し

3 閉会

以上